

建学の精神「社会に対する報恩奉仕」のもと、大学の存続・発展を目指す



専修大学理事長 日高義博

ひだか よしひろ 1948年宮崎県生まれ。70年専修大学法学部卒業。75年明治学院大学大学院法学研究科博士課程単位取得退学。同年専修大学法学部講師、その後、助教授、84年に教授。88年法学博士。法学部長（2001～04年）、専修大学長（2004～13年）などを歴任。04年より法科大学院教授。06年より学校法人専修大学理事長。18年より名誉教授。専攻は刑法学。居合道5段。

育友会の皆様には、日頃から専修大学の運営に対してご支援・ご協力をいただき、厚く御礼申し上げます。

昨年度は、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、緊急事態宣言の発出もなされ、日常的な運営もままならない一年でした。本学におきましては、コロナ禍の中で様々な対策を講じながら、大学運営を行ってまいりました。経済的に困難な状況にある学生を救済すべく、早い段階において、在学生に対し「新型コロナウイルス感染症拡大に伴う緊急支援奨学金制度」を設けました。育友会におかれましては、この緊急支援奨学金制度や教育環境の整備等に対して、多大なご支援を賜りました。心から御礼を申し上げます。

専修大学は、昨年9月に創立140周年を迎えました。コロナ感染防止のため、規模を縮小し且つ時間も短縮せざるを得ませんでした。が、「創立140周年記念式典」を靖国通りの140年記念館で実施することができました。この10年間のキャンパス整備計画をすべて完了することができ、来たるべき創立150年に向けて新たなスタートを切りました。本学の21世紀ビジョン「社会知性の開発」のもと、「学生を基本に据えた大学づくり」を念頭に、これから

も大学の発展に尽力してまいります。

昨年は、育友会の事業の一つである「夏の支部懇談会」がコロナ禍にあつて開催できませんでした。大学の情報も十分に発信することができず、残念でした。今年度は、各支部で感染症防止対策を講じて支部懇談会を開催する予定になっていると伺っております。無事開催できることを祈っております。本学の21世紀ビジョン「社会知性の開発」を具現化するには、教職員・学生だけでなく、育友会の皆様や校友会のメンバーも大学の活動の輪の中に入っていくことが必要です。育友会と校友会は、大学運営を支える両輪ともいえるべき存在です。育友会の皆様もオール専修の一員として、本学の発展に向けてご尽力いただきますようお願い申し上げます。

専修大学は、創立以来、社会の屋台骨を支える有為な人材を多数輩出してまいりました。大学を取り巻く環境は、益々厳しくなってきました。本学の「社会に対する報恩奉仕」という建学の精神のもと、大学の存続・発展を図らなければなりません。今年度も、引き続きコロナ感染防止のため様々な対応が必要です。授業の展開をはじめ大学運営の正常化に向けて、更に尽力してまいります。今後とも、力強いご支援とご協力をいただければ幸いです。

コロナ対応を含め、 2021年度の専修大学に ついて

専修大学学長 佐々木重人



ささき しげと 1955年東京都生まれ。78年専修大学商学部卒業。83年専修大学大学院商学研究科博士後期課程単位取得満期退学。同年専修大学商学部助手。講師、助教授を経て95年に教授。商学部長（2013～16年）。博士（経営学）神戸大学。税理士試験委員（2011～13年度）。日本会計史学会会長（2013～16年）。16年より専修大学学長。担当は会計史。

ご父母・保護者の皆様には、いつも本学の教育・研究活動にご理解を賜っておりますことに心より感謝申し上げます。とりわけ本年度から、新たに育友会員となりました新入生のご父母・保護者の皆様には、ご子弟・ご子女の本学への入学に際しまして、多大なご支援をいただきましたことに対して、厚くお礼を申し上げます。

育友会は、専修大学の学部学生のご父母・保護者の皆様が会員であり、大学での教育や課外活動、各キャンパスでの生活全般に関わる情報を本学と共有し、学生を共に支援する組織です。本学に対する多方面に及ぶ育友会からの支えは、私どもにとって大きな心の支えとなっております。

昨年度はコロナ禍のため、本学も大きな影響を受けました。恒例行事やイベントが軒並み中止となり、前期はオンライン授業が主たる教育手段となり、後期は、対面授業が一部再開されましたが、オンライン授業との併用が続きました。その際に、教科書の販売は、すべてWEBによる注文によることといたしました。育友会からのご寄付によって教科書の発送に係る費用を無料にして学生宅に送付できたことは、困難に立ち向かっていた本学にとって大きな励みとなりました。そのような支援を受けとめて、本学は、学生とのコミュニケーションのあり方を模索し、制限された環境のなかで、オンライン授業の質の向上に注力しました。オンライン授業アンケート等を実施して、学生の声に耳を傾けつつ、感染防止に向けて徹底した対策を講じながら、できる限り、授業満足度を上げる努力を継続いたしました。

本年度においても、昨年同様に教科書発送費に充当する資金を育友会よりご支援いただいておりますこと

に厚くお礼を申し上げます。昨年度の経験を基礎として、本学は、本年度の授業運営方法について、対面授業とオンライン授業とのベストミックスを学年別に追求するというアプローチで検討を重ねました。その結果、これまでの感染対策に加えて、「教室の換気」対策をより強化することを前提として、1年次および2年次の学生には、対面授業の機会が比較的多く必要と判断し、週当たりで、最低3日間の通学を求める時間割となるように設計しました。同様に3年次の学生には最低2日間、そして4年次の学生には、週当たりで最低1日の通学を求めることを基本方針といたしました。またオンライン授業は、対面授業に代わる補助的な手段という考え方から脱却して、デジタル媒体の豊富な資料やコミュニケーションツールを積極的に活用する魅力的で効率的な教育手段として位置づけようと思っております。そのために、本学は、先生方によるオンライン授業のスキルアップを目的としたマニュアルの作成や技術的サポートを継続的に実施しております。

本学は、皆様からの声を教育活動等に反映することを重視してゆきたいと考えております。育友会が夏期休暇中に全国67支部に分かれて実施する「支部懇談会」にぜひお越しください。昨年度はオンラインにて実施しましたが、本年度は、感染対策を講じて、各支部が準備した会場にて、本学教職員からお伝えする大学の近況や就職に関するご報告のほか、個別面談を通じてのご相談にも応じさせていただく予定です。

本年度も引き続きご指導ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。